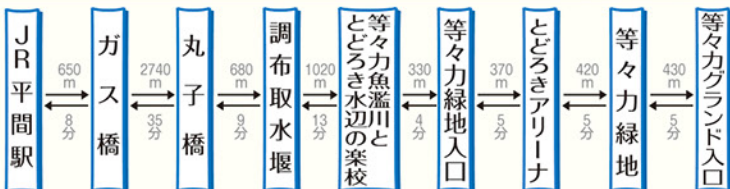


3 多摩川散策と等々力緑地コース

全長 6.6km 時間 84分



多摩川ののどかな自然環境を楽しむ一方で、かつてのあばれ多摩川の足跡も見られ、多摩川という自然環境の両面を偲ぶことができます。コース沿いには歴史、文化遺産も数多くあります。

コースの説明

多摩川(MAP C-1~H-6)

山梨・埼玉県境の笠取山に源を発する多摩川は、川崎市域では流路延長138kmのうち約31kmを占めています。その中で中原区に接する流域は約6kmあります。多摩川の水と緑は川崎市の自然、産業、歴史、文化に深い係わりを持ち、まさに川崎市の『母なる川』と言えます。かつては氾濫を繰り返した歴史をもち、川筋は蛇行し、人々の生活を脅かす暴れ川でした。川の両岸の東京都と川崎市（中原区）には同じ地名である、等々力、沼部、丸子が残っています。現在河川敷は広域避難場所に指定されており、公園緑地、サイクリングコース、運動施設等に利用され、区民に身近な自然環境空間として憩いの場となっています。



多摩川

等々力魚瀬(ぎょうらん)川と

とどろき水辺の楽校(MAP D-2)

等々力緑地先の河川敷内本川から分流している小さな水路が魚瀬川です。魚瀬川では多摩川の自然環境が復元され、魚類等の生息繁殖を見ることができます。水辺の楽校はこの魚瀬川と周辺の中州をフィールドに、自然の生態系を観察し体験することができる川の楽校で、川遊びなどの行事が毎月開催されています。

とどろき水辺の楽校



リバービオコリドー

(河川敷生態系回廊)(MAP F-2)

多摩川の生き物が生息しやすい環境をつくっているのがリバービオコリドーです。グラウンドなど人工的な場所が続く河川敷では、木立や緑が少ないため自然の生き物が生息しにくい環境です。こうした問題を解決するためにもともと多摩川にあったオニグルミ、タチヤナギなどの樹木や、ヨシ、オギなどの草木を散策路の脇に植え、連続した緑地帯をつくっています。木陰や茂みは生物が生息しやすい環境となり、落ち葉が底生動物の生息場所になる等の様々な効果が生まれ、多摩川の生態系が蘇ってきています。



調布取水堰

調布取水堰(MAP F-2)

調布取水堰は、多摩川に9つある堰のうち最も下流に位置しており、現在は東京都が工業用水として取水しています。防潮堰の役割も果たし、魚道も設置されています。春先にはアユが大量に水しぶきを上げて遡上する姿が見られるまでになりました。



緑地

等々力緑地(MAP D-2)

43万5914平方メートルの広さと豊かな緑に覆われた、中原区が誇る公園です。敷地の大部分が多摩川の旧河川敷に位置します。園内にはサッカーJリーグ川崎フロンターレの本拠地である等々力陸上競技場、県内最大級の規模を誇る等々力球場、バスケットボールBリーグ川崎ブレイブサンダースのホームアリーナでもあるとどろきアリーナ等の運動施設があります。また、ふるさとの森、花の散歩道、フィッシングコーナー等があります。



野球場

